

R6.1.29
夕刊

救命胴衣「必要」
児童の9割認識

香川県の貸出事業

香川県のライフジャケット（救命胴衣）の貸出事業の成果発表会が27日、高松市内で開かれた。同事業は水難事故防止のため2021年から実施しており、小学校の水泳授業で着用を体験した9割以上の児童が、救命胴衣の必要性を認識するようになった事例を紹介。県内外の自治体や水難防止に取り組む関係者ら約70人が聞き入った。

県は現在、主に複数の企業からの寄付で340着を所有し、希望に応じて県内の市町や学校などに無償で貸し出している。22年度からはスポーツ庁の委託を受けて実施。発表会では23年に延べ1677着を貸し出した実績を公表し、登壇した県教育委員会の増田一仁さんは「夏場だけでなく年間を通してニーズがあることが分かった」と振り返った。

香川県学校に救命胴衣無償レンタルその後